

努力賞

マッチ売りの少女

荒川区立第五峡田小学校 五年

田中 希実

柳田先生、先生は「マッチ売りの少女」の話を  
読んだことはありますか。

私はこの絵本からどんなに辛くても、自分がで  
きるかぎりのことをすることの大切さを学びまし  
た。

私がこの絵本で心に残ったことは二つあります。  
一つ目は、少女が寒くてがまんができなくて売  
りもののマッチを使って温まろうとしたところで  
す。

家の中からたくさんの笑い声や、ごちそうのいい  
においがして、とてもたまらなくなるはずですが、

少女は人に助けなどを求めず、1人でがまんして  
いました。

私だったら、たえきれず、知らない人家で温まっ  
ているかもしれません。

二つ目は、最後におばあちゃんと一緒に天へ登  
っていつてしまうところです。

私はおばあちゃんと一緒に天へいつてよかったと  
思います。

なぜかというと、すごくつらい思いをして、たい  
へんだったけど天では、何もつらい思いをせずに  
幸せに暮らしていけると思うからです。

この絵本は、悲しいお話ですが、私は、つらい  
後には幸せになれると思います。

柳田先生はどう考えますか。

だからこれからは、少女みたいに自分ができる

かぎりのことをやる。前向きに考える。ということをしていききたいです。

私は、自分から進むことが苦手です。

もしかしたら先に進んだら悪いことがまっているかもと考えてしまうからです。

学校で手を挙げるのも、自分の中で答えがわかっていても挙げられません。

これから、前向きに自分から進んでいって少女みたいに積極的になりたいです。

がんばりたいです。